

# ひろがるアート —現代美術入門篇—

愛知・岐阜・三重 三県立美術館協同企画展

2010年10月23日|土|—12月19日|日|

愛知・岐阜・三重三県の県立美術館が協力して開催する展覧会の第5回は、20世紀後半の美術に焦点を当てます。展示は5部から構成されますが、ここではそれぞれのセクションに接するための、ヒントとなりそうな点にふれてみましょう。

〈人間像の変容〉でのそれは、SFがくりかえし描いてきた、進化した人類の姿です。突然変異したミュータント、機械と合体したサイボーグ、あるいは電脳空間における情報としての人間。そんなイメージを、7点の作品が表わす人間像と比べてみてください。

〈ひろがる平面〉では、花爛漫と咲きほころぶまを思い描いてはいかがでしょう。満開の桜によって景色がふだんとちがって見える、その時の感覚とここでの作品8点もたらずのものに、何か共通点がありはしないか。

〈物質・変容の種子〉でのヒントは、アニメ化もされた荒川弘の漫画『鋼の錬金術師』などでおなじみの錬金術です。物質を死せる対象と見なすのではなく、何らかのきっかけを与えれば変化していく可能性を宿したものととらえること。そんな可能性を引きだした作品7点を展示します。



三重県立美術館ニュース

過ぎゆく時を想い、感傷を深くする秋。古より、日本人が愛し、詠い、描きつづけた季節でもあります。今なおわたしたちは、足もとに咲く草花に、儂げな虫の音に、移りゆく葉の色に、心を動かさずにはられません。自然を想い、本を開き、芸術に触れる。そんな時間の積み重ねが、厳しい時を越え、新たな一歩を踏み出すための強靱なところをつくり出してゆくのでしょう。(Mm)

## 展覧会スケジュール

■企画展示  
**愛知・岐阜・三重 三県立美術館協同企画展**  
**ひろがるアート—現代美術入門篇—**

2010年10月23日[土]—12月19日[日]  
 観覧料：一般800(600)円 高生500(400)円  
 小中生400(300)円  
 ( )内は20名以上の団体料金および前売料金

●愛知・岐阜・三重各県立美術館学芸員によるギャラリートーク  
 日時：12月4日[土]午後2時から  
 聴講無料、ただし観覧券が必要です。

●こどもひろば キカクテンを楽しみ隊  
 日時：10月30日[土]、11月13日[土]  
 両日とも午後1時30分から  
 対象：小学生以下(未就学児は保護者同伴)  
 定員20名程度(先着順)、要申込、参加費無料

●ミュージアム・コンサート「いきいきいき!／breathing」  
 会場：三重県立美術館 講堂(座席数150)  
 日時：10月30日[土]午後3時開演(午後2時30分開場)  
 出演：鈴木昭男(サウンド・アーティスト)、山内桂(サクソ)  
 企画：藤島寛(心理学)  
 申込不要、参加費無料

●友の会美術セミナー  
 会場：伊勢市観光文化会館  
 〒516-0037伊勢市岩渕1-13-15  
 日時：11月3日[水・祝]午後1時30分から  
 講師：石崎勝基(三重県立美術館学芸員)

## 子どもアートinみえ

2011年1月4日[火]—2月13日[日]  
 観覧無料

## ■常設展示

美術館のコレクション  
 【第Ⅲ期】2010年9月28日[火]—12月26日[日]  
 【第Ⅳ期】2011年1月4日[火]—3月31日[木]

柳原義達記念館 柳原義達の芸術  
 【第Ⅲ期】2010年9月28日[火]—12月26日[日]  
 【第Ⅳ期】2011年1月4日[火]—3月31日[木]

## ■メールマガジン 購読料無料

三重県立美術館の最新情報をみなさんのパソコン、携帯電話へお届けします。詳しくは、美術館ホームページをご覧ください。

## 利用のご案内

■開館時間  
 午前9時30分午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日  
 月曜日(ただし、祝日休日は開館)2011年1月11日(火)、3月22日(火)、メンテナンス休館:12月24日(金)、年末年始(2010年12月28日(火)から2011年1月3日(月)まで)

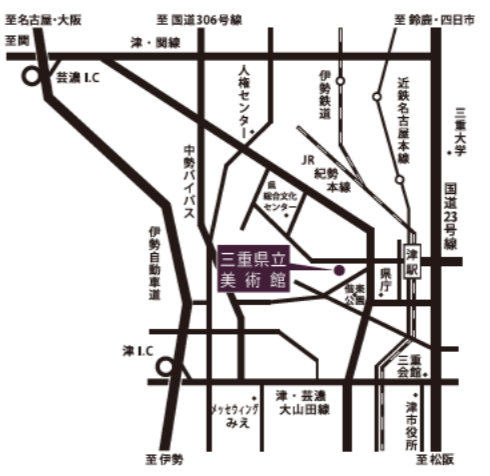
## ■観覧料

【常設展示の場合】  
 〈美術館のコレクション+柳原義達記念館〉  
 一般300(240)円  
 高・大生200(160)円  
 65歳以上の方、小・中生 無料 ( )内は20人以上の団体料金

【企画展示の場合】  
 その都度定めます。  
 ただし、学校の教育活動として小・中・高・特別支援学校等の団体が観覧する場合、身体障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方1名が観覧する場合は無料。

## ■交通

津駅(近鉄・JR線)西口より徒歩約10分または、循環津駅西口(つつしが丘、むつみが丘経由)行き、総合文化センター行き2分、美術館前下車 ※できる限り公共交通機関をご利用ください。



三重県立美術館 〒514-0007 津市大谷町11  
 Tel:総務課 059-227-2100 学芸普及課 059-227-2220 Fax:059-223-0570 http://www.pref.mie.jp/bijutsu/hp/

三重県立美術館ニュース「HILL WIND」No.26  
 ■発行日:2010年10月22日(禁・無断転載) ■企画・編集・発行:三重県立美術館 ■原稿末尾のイニシャルについては以下のとおり  
 井上隆邦(Ir)毛利伊知郎(Mi) 伊藤亮子(Ir) 石崎勝基(Ik) 田中善明(Ty) 道田美貴(Mm) 生田ゆき(Iy) 原舞子(Hm)  
 ■表紙の作品:杉戸洋《The Second Lounge》(部分) 2002年 愛知県美術館蔵 ■デザイン:豊永政史

〈物質・変容の痕跡〉は、前のセクションと対になっています。ここでは、何かが起こった跡、といった相貌に注目してみましょう。作業が完了して錬金術師の実験室から出された物質は、経過した時間の記憶を刻みつけられた化石のように見えるかもしれません。そんな作品5点を展示します。

〈平面再訪〉では、宇宙を舞台にしたSFにしばしば登場する、ワープ航法の場面を思い描いてください。世界の外に位置する別の次元、そんな空間を連想させるひろがりが見られることになるかもしれません。(Ik)

1. 小清水漸《作業台一桐の枝—》1978年 岐阜県美術館
2. 野村仁《動起する真空》1990年 岐阜県美術館(安藤基金コレクション)
3. 荒川修作《名前のない耐えているものI》1958年(再制作1986年) 岐阜県美術館(田口コレクション)
4. ラモン・デ・ソト《連絡階段》1997年 三重県立美術館
5. 中西夏之《M字型—II》1981年 愛知県美術館
6. 瑛九《黄色い花》1957-58年 愛知県美術館
7. 戸谷成雄《双影体 II》2001年 愛知県美術館

「橋本平八と北園克衛展」の関連企画として、「戸谷成雄展」を開催しました。それは、橋本と北園という芸術家兄弟の活動を紹介するだけでなく、彼らが現代に残した遺産も紹介できないかと考えたからです。兄弟の活動がすぐれて今日的意義を持っていることは、彼らに関心を寄せるアーティストが少なくないことからわかります。

戸谷成雄は、1970年代、彫刻家としてスタートを切った頃に橋本平八の作品と出会い、「彫刻」についての主体的な思索を深めます。言葉を変えれば、戸谷は橋本平八と会話を交わしながら彫刻と向き合ってきたといえるでしょう。橋本平八と戸谷成雄の作品の間に、表現上の共通点があるわけではありませんが、しかし、自然の成

り立ちや原始時代にまでさかのぼって彫刻を根源から考えようとする戸谷の姿勢は、橋本平八のそれに通じています。

戸谷は、丸彫りと浮彫、彫ることと構成、表面と内面といった彫刻固有の問題、死と生、陰と陽といった生命や自然と関わる問題、さらに西洋とアジア、近代と前近代といった非西洋世界固有の問題などを多岐にわたって思索し、その結果得られた思想を作品に表現してきました。

相反すると思われるがちな二つの概念間には複雑な関係があること、自明と考えられがちな事柄にも根源的な問題がひそんでいること、こうしたことを戸谷は作品を通じて私たちに投げかけています。(Mi)

1 柳原善達記念館での展示風景(会期 2010年8月7日(土)ー10月11日(月・祝))



新しいホームページのデザイン案。



中身を少しだけご紹介。所蔵品データベースでは、所蔵作品の検索等ができるようになります。

リニューアルにともない、11月1日(月)より URL が変更となります。新 URL : <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

## ホームページ・リニューアルに向けて

この夏、三重県立美術館では《画家の知名聡子さんと詩人の村田仁さんと一緒に絵と詩で「心の風景」を描き出してみよう!》と、中学生・高校生を対象にワークショップを行いました。名知さんは、「あなたの好きな場所・好きだった場所を私と一緒に描いてみませんか?」と、自然に中・高生にとけ込んで行きました。そして、思い思いに描き始めた中・高生の傍らで、

一人ひとりに話しかけ、その思いを共有しながら、名知さんも自身の記憶を重ね合わせた作品を描いていきました。合わせて100点以上の絵が描き上がり、それぞれ自分の作品に「夕暮れ」「雲のすきまの木」「大空のグラデーション」…等のタイトルを付けました。

村田さんは「声変わりの日」と題して、中・高生がそれぞれ持参した幼い頃に書いた絵日記やメモ書きを頼りに記憶に近づき過去と現在を行き来しながら、ゆるゆると詩の世界に彼らを導いていきました。完成した詩は今の自分の声で朗読し、終了しました。

表現することに夢中になっている若い作家によって、参加した中・高生は、違和感なく異空間に導かれ、「絵と詩」で自分の内

面を表現することの不思議な感覚を味わうことが出来たように思います。一方、若い作家は中・高生時代の感じ方に刺激を受け、自分だけの世界に陥りやすい日々を、ふり返ることができたのではないのでしょうか。

今回のワークショップでの成果、絵と詩は展覧会「子どもアトlinみえ」2011年1月4日(火)ー2月13日(日)にてご紹介します。(三)

2 ワークショップ「心の風景を描く」2010年8月3日(火)ー8月6日(金)

とにしました。大きく変わるのは全体の色味で、従来のものよりも明るいトーンになります。使用する文字の種類や大きさも統一し、すっきりとしたデザインになるよう心がけました。

また、これまでも所蔵作品や過去に開催した展覧会の情報、年度ごとの活動報告などをホームページ上で公開してきましたが、情報の蓄積も膨大なものとなったため、所蔵作品やこれまでに開催した企画展を検索、情報を絞り込んで表示できる機能が新たに加わります。これらの機能により当館の活動をより身近に感じていただければ幸いです。

機能が増え、情報も増えていくなかで、今後どうしたらより良いホームページを作っていけるのか。利用者の声に耳を傾け、日々検討を重ねながら、美術館の情報を発信していきたいと思

います。(Hm)

―美術館に行ってみようかな―そう考えたとき、まずは何をされるでしょうか。

美術館への行き方、休館日や開館時間、開催されている展覧会、ミュージアムショップやレストラン等の情報も知りたい。ちょっと調べてみよう、と美術館のホームページを検索する。こんな経験はお持ちでしょうか。

近年、端末装置やネットワークの拡充はめざましく、いつでもどこでも、だれでも、知りたいことを調べられる世の中になりました。しかし便利になった一方で、複雑になりがちな部分も多々あります。提供する側として最も重要なことは常に利用者の側に立って情報を発信することであると考えています。

当館でも1998年より美術館ホームページを公開してきましたが、この度、より使いやすく、必要な情報をすぐに調べられることを第一として、ホームページのリニューアルを行うこ

## 三重県立美術館友の会へのお誘い

友の会は三重県立美術館を支える団体として活動しています。研修旅行、美術講演会、懇談会など、会員同士の楽しい交流や美術の教養を深める催しに参加できます。

■年会費  
一般会員: 3,000円 入会金: 500円  
ペア会員: 5,000円 入会金: 1,000円

■特典  
会員鑑賞券配付、観覧料半額、美術館に関する情報提供のほか、レストラン、ミュージアムショップのご利用にも割引があります。詳細は、三重県立美術館友の会事務局(TEL 059-227-2232)までお問い合わせください。

## 財団法人 三重県立美術館協力会 賛助会員へのお誘い

美術館の調査・研究事業補助、カタログなど美術資料の作成頒布、鑑賞団体への援助など、美術館活動活性化のための事業をおこなっています。協力会の主旨にご賛同いただき、賛助会員へのご加入をお願いします。

■会費  
年間一口  
個人: 25,000円 法人: 50,000円  
準会員: 10,000円

■特典  
展覧会ならびにレセプションへの招待、各展覧会毎のカタログ贈呈や美術館活動に関する情報提供などの特典があります。詳細は三重県立美術館協力会事務局(TEL 059-227-1117)までお問い合わせください。